

平成 26 年 度 学 校 評 価

学校 目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
I 幅広い学習ニーズに対応する多様な柔軟な教育課程を展開する	<p>1 『荏田アカデミア』での学習マネジメント体制の構築</p> <p>(1) 第一希望の進路実現のため、学びのツール『荏田アカデミア』を活用した学習支援体制を構築し、日常の教科活動、放課後や長期休業中の補習・講習等の充実を図る。</p> <p>(2) スポット授業、体験型授業、提案型授業などを積極的に導入し、学習への興味・関心、意欲を高め、生徒個々の特性に応じた学力の伸長を図る。</p> <p>2 体育コースの指導的人材の育成</p> <p>(1) 体育コースにおいて、①健康の維持・増進、②競技力向上、③生涯スポーツ、を基軸として専門科目の授業内容の充実を図り、将来の体育・スポーツ指導者としての資質の向上を目指す。</p> <p>(2) 基本的な生活習慣を確立するとともにスポーツマン精神を育み、その精神が学校全体に波及するよう取り組む。</p> <p>(3) 体育コースと上級学校との接続に関わる課題を分析し、大学等の関係機関との連携交流を伴った新たな接続体制を構築する。</p> <p>3 教育課程の改善・充実</p> <p>平成 27 年度からの新学習指導要領の完全実施を踏まえ、新教育課程編成の課題解決に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ASL (放課後学習支援) や長期休業中の講習・補習の講座を昨年度よりも充実できたか。 体育コースの専門科目の授業改善に取り組めたか。 体育コースの取組が、一般コースの生徒に先導的な役割を果たしたか。 大学関係機関との新たな教育連携の構築が図られたか。 新教育課程編成の課題や解決の手立てが明確化されたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ASL は、国語、地歴・公民、数学、英語において、進路に応じた複数の講座を設置することができ、より生徒のニーズに対応することができた。また、通年での開講を提示した講座以外にも、定期テストの直前等に、苦手意識の強い生徒を対象にした補習も複数の教科で実施することができた。 教室のエアコン設置により、夏季休業中の補習・講習の教場の調整がスムーズとなり、講座数の増加や講習の日数を増やすことができた。 体育理論 (スポーツ概論) においては、メンタルトレーニングや栄養、危険予知トレーニングなどの調べ学習を実施し、レポート作成を行うことにより、スポーツ指導者としての知識を深め、効果的なスポーツ指導の基礎的条件を学んだ。 体育実験では、発表に向けて計画的に準備を行い、実験結果の検証へと結びつけることができた。実験やレポート作成により、科学的思考力の向上が図られた。 分野別進路説明会の企画の中で、体育系や健康福祉、人間科学などの学科がある日体大・東洋大・国士舘大・神大・東海大・日本工学院などの説明を聞き理解を深める場をつくった。 平成 27 年度に新学習指導要領になる生徒が 3 年生になるという状況下で、選択科目の組み合わせの調整やクラス編成を進めた。その編成を組み立てる中で、同時に問題点の検証も行った。その結果、今後の教育課程編成の問題点が浮き彫りになり、次年度以降どの部分を改善すべきかの案を立ち上げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力定着のため日常の補習に加え、定期考査直前にも復習を重視した補習を引き続き実施する。 進路実現に対応した能力の伸長のための講習を多くの科目で実施する。 年間を通して多くの生徒が参加できるように、日程等柔軟な対応・配置を検討する。 長期休業中の講習が、生徒の進路実現に必要な講座となるよう一層の充実を図れるように配置する。 体育実験の分析の視点を広げ、より高い内容の検証にするために、より専門的な知識や実験器具の充実を図りたい。 学校生活における生徒のリーダーシップの向上を図るために、体育の学習だけでなく、学校行事等において、その企画や運営について中心となって考えさせる取組を行っていきたい。 専門コース特有の教科や実習などの中で大学機関との連携が図れるよう検討する。特に体育系の大学機関のみならず、予備校等とも連携し、体育コースの進路に通じる取り組みを検討する。 今後に向け、具体的な大学関係機関との取り組みを推進していくよう、なお一層の努力が必要である。 今年度作成した選択帯を、更に生徒の必要性に応じられるよう検討・改善を図る。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択科目が幅広く設置されているため、進路に合わせて選択できていることを評価したい。 どの位の生徒が講習や補習に参加しているのか、どういう進路の生徒の参加があるのかを情報として欲しい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生講話のような行事を通して同窓会の力が活かせるような環境の需要を高めて欲しい。 中教審の答申を踏まえた入試改革にあたり、生徒の本を読む習慣や自ら考える力をつけさせて欲しい。また、生徒の表現力を高めるような授業づくりの向上をめざして欲しい。 大学関係機関との新たな教育連携の構築を推進して欲しい。出張講義での段取りや手順等をぜひ再考して欲しい。その際、大学関係機関の教職員との意見交換の場を設定して欲しい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 『荏田アカデミア』での学習マネジメント体制のうち、放課後や長期休業中の学習支援体制は、エアコンの設置などで教場の確保がし易くなったこともあり、昨年度にも増して整ってきた。 日常の教科活動の充実については、「教えて考えさせる授業」を基軸にして、生徒一人ひとりのニーズに合わせた指導ができるようになった。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ASL については、開講講座の充実に加え、部活動を引退した 3 年生の対応も含め、募集時期についてもさらに生徒が受講しやすい方法を検討したい。 体育コースの運営に関しては保健体育課や体育センター指導研究課等との連携を強化し、教員の専門的知識に関する校内研修や体育実験授業の充実を図っていく。 近隣大学 (日本体育大学等) との連携については、具体的内容を挙げながら、両者のメリットと果たすべき役割についての検討を始めている。 平成 27 年度の「県立高校改革」の実施計画発表に備えての校内の体制作りを行った。

<p>II 豊かな心と健やかな体を育成し、心ふれあう教育を推進する</p>	<p>1 基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成 (1) 日常的なあいさつ、声かけや清掃活動等を通して、社会性や公共性を育てる。 (2) 授業を受ける心構え、ルールの遵守や頭髪・服装、遅刻指導等を通して、規則正しい学校生活と規律を重んじ、「一人ひとりが学校を代表している」という責任感や愛校心を育成する。</p> <p>2 生徒支援体制の充実 (1) 教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、ケース会議等、日常の生徒支援の連携を強化し、教育相談体制の充実を図る。 (2) 登下校時の交通安全指導、巡回指導、自転車点検等の実施により、生徒の健康・安全教育の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導をあいさつ運動と併せふれあい&あいさつ運動とし、学期1回実施できたか。 日常的な指導とともに、頭髪、服装全体指導等が適宜行われたか。 教育相談コーディネーターの各学年配置ができたか。 自転車保険の加入の義務化やPTAと連携した自転車点検が実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動は登校指導と同時に実施したが回数的には少なかった。 授業中のマナー向上のための服装・頭髪指導については各学年共に年間通した体制で行うことができた。また、携帯電話については試験中の音漏れが数件あった。 各指導を行う上で規則正しい生活の必要性を理解し、自主的に基本的な生活習慣を身につける態度を養うことができた。 各学年に1名ないし2名の教育相談コーディネーターが配置され、各学年の教育相談を担当した。 毎回多数の生徒や保護者が予約をし、スクールカウンセラーを利用した。 ケース会議も複数回開かれ、生徒について情報の共有や支援の手立てについて意見交換がなされた。 教育相談に関する研修会も開かれ、全職員が受講した。 自転車保険加入の徹底を図り、事故対応から交通安全意識の向上を高めた。 PTAとの連携で自転車点検を実施できた。 登校指導、校外巡回指導等で交通安全指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ週間の定期的な実施と共に、活動支援グループと連携をとり学校生活の中であいさつができるような啓発活動が必要と考える。 指導に当たり、教員の意識統一を図り指導体制の充実を図る。 教育相談コーディネーター同士の情報交換の場や、ケース会議の場を増やし、きめ細かな生徒支援が図れるよう改善していきたい。 自転車点検を年度初めの4月に行い、交通安全マナー、登下校に関するマナー等の向上のための駐輪指導、自転車通学指導の強化を図る。 今後については、自転車交通安全指導等の実施も検討が必要と思われる。 	<p>(保護者)(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内で生徒に会うと、挨拶をきちんとしてくれる。好印象を抱く生徒が多数いると感じる。 学校全体が落ち着いている。生徒は基本的な生活習慣が身に付いてきているようだ。 自転車点検等をぜひ継続して、生徒の事故防止に努めて欲しい。(学校評議員) 生徒が落ち着くように、校内の壁の色を工夫するという手法もあることを提案したい。 校内でのスポーツ活動が大変活発であることを踏まえ、AEDの台数の検討をすべきだ。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶については、部活動のみならず日常生活にしっかりと浸透しつつある。この取組については引き続き積極的に継続していく。 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を念頭に行われてきたこれまでの指導が、実を結び始めている。今後さらに教職員の意識を統一し、足並みを揃えて指導を継続していくことが、肝要である。 また、登下校指導や服装指導、頭髪指導は、概ね生徒に定着してきた。特に式典での服装については、生徒が自ら正すことができるようになった。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、カウンセリングを希望する生徒が増えてきていることや、発達障害が疑われる生徒への対応を考え、必要な知識や対応法などについての研修を学校独自で開催する。 道路交通法の改正に伴い、自転車通学生徒だけでなく登下校での交通安全指導の徹底を図る。 自転車の乗車マナーに対する近隣の方からのご意見もあるので、安全面も踏まえて指導の徹底を図る。
---------------------------------------	--	---	---	---	--	---

<p>Ⅲ 主体的に学ぶ力を育成し、確かな学力の向上を図る</p>	<p>1 授業づくりの取組と組織的な授業改善の推進 (1) 授業づくりの取組を通して、生徒一人ひとりに自ら学び考える力を育てるとともに、基礎的・基本的な知識・技能の修得を図り、それを活用する力の育成を図る。 (2) 「わかる授業」・「生徒自らが考え、調べ、表現する授業」について日々の教育実践を通して研究を進める。 (3) 授業見学や研究授業などを通して、授業をつくる上での課題やその解決に向けた手立ての共有化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価の各項目について70%以上の満足度が得られたか。 授業づくりについて日常的に取り組もうとする体制ができたか。 校内研修、公開研究授業を年間2回以上開催し、授業づくりに取り組めたか。 他校種(中学や大学)との連携授業や外部の専門家を招いた学習会などを活用することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も全教科ほとんどの調査項目で70%以上の満足度を達成していた。更に科目ごとで項目の差異はあるが、どの科目においても80%以上の満足度を得られている項目が多かった。 時期を定めて行っている「授業改善のための講習会」だけでなく、日常の授業においてもお互いの授業見学をする機会が増加した。特に自教科以外の見学機会が増加し、「組織的な授業改善」を行う体制が整ってきた。 1学期は自教科の授業を見学し、それに関して教科内で話し合う研修会を行った。2学期は早稲田大学教育・総合科学学術院の町田守弘教授を招いての「生徒から始める授業改善」というテーマで研修会を行った。 近隣の学校への授業研究会の連絡を行い、また、こちらからも近隣の学校への授業参観を計画した。また、早稲田大学の学生を招き学習会を行ったり、SMB Cからの講師を招き、消費者教育を行ったりした。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科において、現時点で高い満足度を得ている項目の要因を話し合い、それを比較的満足度の高くない項目に活かせるような「組織的な授業改善」を行っていく。 定期的に設けられた授業見学日以外でも、気軽に授業を見たり見られたりする機会を作り、その感想を言い合うことで、より一層の授業改善を行っていく。 研修会の成果をそれぞれの教員が授業改善に取り入れ、指導の向上を図る。 「総合的な学習の時間」においても、大学等と連携して新しい形の授業展開を目指して行く。 	<p>(保護者) ・わかりやすい授業を展開してくれる教員が多いと感じる。 (学校評議員) ・グループ形式の授業を実施していることにより、生徒が参加しやすい授業づくりができていたと感じた。引き続き、授業手法の工夫に積極的に取り組んで欲しい。 ・他校種との連携をとおし、授業研修の機会を設け教員の指導技術の向上を目指して欲しい。</p>	<p>(学校評価) ・「組織的な授業改善」については、例年行っている授業公開、研究授業等に加え、外部講師の方を招き、「生徒から始める授業改善」を大きなテーマとして、研修会等を実施することができた。「生徒による授業評価」の結果とともに、次年度の授業に反映されることが期待される。</p> <p>(改善方策等) ・近隣の小中学校に授業見学をさせていただくことにより、「グループワーク」の方法等の検討材料としていきたい。 ・学習面での満足度を図るために、卒業生の意見を参考にすることができないかということを探求していく。</p>
<p>Ⅳ キャリア教育を推進し、希望進路の形成とその進路実現を図る</p>	<p>1 希望進路の形成と進路実現 (1) 『荏田アカデミア』の「キャリアアカデミア」を活用した進路支援体制を構築する。 (2) 進路適性検査、スタディサポート、模擬試験や進路説明会、学習会、キャリア講演会等を通し、生徒一人ひとりが自らの適性や学力到達度を把握し、希望進路が形成できるよう学校全体で取り組み、第一希望の進路実現を支援する。 (3) 教科活動や特別活動等、学校教育活動全般を通じて、インターンシップやボランティア活動、シチズンシップ教育等の体験活動を充実し、キャリア教育を推進する。 (4) 奨学金等の案内を適切に行い希望進路の実現を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 模擬試験等は、生徒の学力に見合ったものを選定し、有効に活用できたか。 生徒(卒業生)の進学希望先のニーズを把握できたか。 希望進路を70%以上達成できたか。 地域貢献活動・ボランティア活動を全員が卒業までに経験できたか。 奨学金の案内が適切にできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 実力テストを1年から3年までそれぞれ2回実施し、分析会を開催するとともに、クラス担任の個別面談等で活用した。 模擬試験の事前指導で、類似問題の演習の実施や、志望校の検討などを行った。 進路希望調査や適性検査を実施し、生徒のニーズを把握した。 概ね生徒の進路希望を達成することができた。 地域貢献デーでは、委員会活動を通して美化活動を行うことができた。 各クラスのボランティア代表生徒60人による訪問ボランティア活動を、子育て支援センターポポラで6回、障害者支援施設アスタ荏田で5回実施した。 さまざまな奨学金の案内を適切に行い、生徒の希望進路の実現を支援することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の生徒の実情にあった事前・事後指導をさらに模索していく。 引き続き、各種調査や検査を行い、生徒のきめ細かいニーズを把握していく。 生徒・保護者の上級学校に対する理解を進めるため、ガイダンスやオープンキャンパスを活性化する。 地域貢献デーの日程であるが、学校行事と近く、他の業務と重なりやすいので、検討したい。 地域貢献とボランティアのあり方について、学校としての方針を明確にしたい。 引き続き、さまざまな奨学金の案内を生徒に適切に行い、生徒の希望進路の実現の支援を行いたい。 	<p>(保護者)(学校評議員) ・進学実績を見ると充実した進路支援体制によって成果が現れていることがわかる。更により成果となるよう期待する。 (学校評議員) ・中教審の答申を踏まえた入試改革にあたり、特にAO入試や指定校推薦及び公募制推薦について高校としても今後の進路指導の改革に取り組む必要があると考える。 ・考える力が就職活動や進路実績に問われるので、そういう力を伸ばす教育活動を行って欲しい。 ・中学校の運営協議会で地域交流の話題の中での荏田高校との交流時、生徒達の表現が大変良いということがあった。ぜひ、交流を継続させて欲しい。</p>	<p>(学校評価) ・進路実績については、ある一定程度の成果を収めることができたと思われるが、さらに上級学校への進学率を高めたい。 ・キャリア教育も視野に入れ、体育コースに限られていた一流アスリートの講演会を全校生徒に対して行うことができた。 ・生徒、保護者に対する進路指導を中心としたガイダンスは、一定の成果を得ることが出来た。</p> <p>(改善方策等) ・体育系大学への進学を希望する生徒のニーズに応えるため、「指定校推薦枠の拡大」や「専門的知識を有する大学講師の派遣」等の方策を検討する。 ・インターンシップやボランティア活動への参加率が高まるよう、定期的な情報提供に努めていく。</p>

	<p>2 活発な部活動や学校行事で切磋琢磨する心豊かな人間形成</p> <p>(1) 活発な部活動や生徒が主体的に取り組む行事運営により、お互いに高め合う人間関係や責任をもってやり通す力を培う。</p> <p>(2) 体育コースと一般コースが一体となった部活動により、高いレベルの専門的な技術・技能の習得を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 部活加入率70%以上を達成するための取組ができたか。 関東大会に3部以上の出場を目指し、部活動の活性化を図られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会本部による自主企画での新入生歓迎会や定期的なHP上での実績広報により、部活動加入率は、80%に達することができた。 陸上競技部が関東、高校総体、高校駅伝に、吹奏楽部が東日本大会、バトン部が関東大会、男子バレーボール部が春高バレーに出場するなど、活躍が目立った。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内への活動実績の周知のため、賞状やパネルの展示及び更新を行っていきたい。 各部の活性化にともなう遠征補助費の増大に対し、会計処理のより一層の適正化と新たな支援体制作りを行っていききたい。 	<p>(保護者)(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動や学校行事を通して生徒が生きいきと活動している様子がよくわかる。文武両道のスローガンのもと、その指導を継続して欲しい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 春高バレーの応援に集まった生徒、保護者及び卒業生の様子から愛校心を感じた。 卒業生の動向を把握しておくことも部活動の発展に寄与できると考える。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度から設定した、「文武両道～支え合い、やり遂げる荏田高生～」というキャッチコピーが、学校全体の雰囲気として定着しつつある。 生徒会活動は、生徒が主体的に活動できるようになってきている。 部活動に真剣に取り組むことで学習面が伸びていくという相乗効果が多く見られるようになった。 部活動と並んで学校行事も非常に盛んであり、これは本校の良き伝統として受け継いでいくものと考えている。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設設備の定期的な点検等をさらに徹底し、部活動による事故防止に取り組む。 関東大会、全国大会等で活躍する部活動がさらに増えるよう、様々な側面から支援をしていく。
--	--	---	--	---	--	--

<p>V 地域との協働・連携による開かれた学校づくりを推進する</p>	<p>1 学習環境の美化意識の高揚及び地域マネジメント力の育成</p> <p>(1) 校内での清掃活動の徹底とともに、荇田坂、荇田高校前バス停や校舎・グラウンド周辺等の地域清掃活動を充実させ、生徒一人ひとりの地域貢献やシチズンシップへの意識・意欲を高める。</p> <p>(2) 近隣小中学校・自治会等と連携し、自治会行事や介護施設でのボランティア、部活動生徒による出前技術指導等により、社会貢献の参画意識を育成する。</p> <p>(3) 校内及び地域と協働することにより、防災意識を高め、防災計画を充実させる。</p> <p>(4) PTA 活動での教職員からの事業提案や積極的な参加により、保護者と一体となった PTA 活動の充実に努める。</p> <p>(5) 入学者選抜に向け、授業公開、部活動見学、オープンスクール、学校説明会等の改善を図り、中学生・保護者や地域への学校情報の発信力を一層充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・荇田高校前バス停、校舎・グラウンド周辺の清掃活動が学校全体で取り組めたか。 ・スポーツ講習会を年5回以上開催し、地域連携ができたか。 ・全校一体となった適切な防災計画を立てることができたか。 ・PTA活動において教職員の積極的な参加を募り、保護者と一体となった活動の充実に取り組めたか。 ・充実した校外学校説明会に向けて、開催会場設定等の改善が図られたか。 ・本校の特色や求める人物像を中学生・保護者及び地域に周知できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間をとおして、クラスや部活動など、学校全体で荇田高校前バス停及び校舎・グラウンド周辺清掃の活動に取り組むことができた。また、充実した地域清掃活動の取組については、地域から高く評価された。 ・荇田南小でバレーボール教室10回、陸上教室2回を開催した。 ・また、地域の複数の自治会や小学校のお祭りにジャグリング同好会が参加するなど地域との連携を深めた。 ・年間をとおして防災訓練(2回)、シェイクアウト訓練(1回)及び緊急時避難放送による訓練(1回)を計画に沿って行うことで、全校が一体となり、生徒及び教職員の防災意識をより高めることができた。 ・年間をとおしてさまざまな PTA 行事及び学校行事への積極的な保護者の参加が多数あり、学校と一体となった活動に取り組む、充実した PTA 活動を行うことができた。 ・開催会場と実施回数については、例年通りとし、内容については、例年、来場者アンケートにおいて、部活動について知りたいという意見が多かったことから、今年度は12月の説明会で部活動や学校行事の説明時間を大幅に増やして実施した。 ・新たに「部活動見学月間」を設定し、延べ158名が来校した。 ・中学校訪問では、今年度新たに17校を追加訪問し、計43校に拡大することができた。 ・全公立展のリーフレットと、早い段階からHPを通して、今年度の学校説明会や学校見学の日程の告知を行ったが、外部2会場で実施した学校説明会では例年並みの来場者数にとどまった。(平成25年度は延べ1055名、平成26年度は延べ1018名)。 ・夏季休業期間中の学校見学は、前年度が延べ302名であったのに対し、今年度は延べ535名と、大幅に増加した。 ・学校案内を始め、リーフレット、受検情報冊子等において、今年度設定した本校のキャッチフレーズ「文武両道～支え合い、やり遂げる荇田高生～」について説明を行ったほか、学校説明会や学校訪問を通して、本校の求める人間像を周知した。また、体育コースにおいては、体育コースの設置趣旨と本校の体育コースの求める人物像について説明した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、充実した地域清掃活動に向けて学校全体としての取組がより円滑にできるように適切な計画を立てていきたい。 ・地域交流活動の実施主体を明確化にして企画内容の改善を図りたい。 ・引き続き、全校一体となった適切な防災計画についてのさまざまな情報収集及び防災研修を行い、適切な防災計画を立て、より一層充実した防災訓練の実施へと繋げていきたい。また、防災・減災のために、校舎及び防災備蓄の点検を引き続き定期的に行いたい。 ・引き続き、PTA 活動の充実を図るために全校一体となった適切な計画を立てて PTA 活動を実施していきたい。 ・学校説明会の開催時期については、例年、中学校訪問において、夏季から12月の間に実施してほしいという要望があることを踏まえ、次年度は10月に校内学校説明会を追加開催することとする。 ・学校説明会の内容については、さらに改善の余地があると考え、次年度においては、公私合同説明会や他校の学校説明会の見学をおして情報収集及び研究を行い、授業見学や体験授業等を含めた内容の検討を行うこととする。 ・本校の期待する人物像と部活動の特色については、おおむね周知できたと捉えている。 ・一方で、主にASLや夏季講習等といった学習活動の特色について、学校案内等に明記し、より重点化した周知が必要であると考え。 	<p>(保護者)(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子バレーボール部、陸上競技部及び書道部の小学生対象のスポーツや文芸をおとした地域交流が大変好評である。また、吹奏楽部やジャグリング同好会も地域の催しに出演し大変好評であった。今後も充実した交流を継続して欲しい。 ・「おやじの会」の立ち上げ等の PTA 活動を聞くにつけて PTA 活動が活発になっていて嬉しく思う。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒はボランティア活動をおして成長することを引き続き学校全体で認識して欲しい。 ・学校説明会等の広報活動が充実していることが喜ばしい。 ・防災体制について引き続き万全な取組をお願いしたい。 ・「元気な荇田高」という潮流をぜひ伸ばして欲しい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や地域での清掃活動を軸に地域との連携が深まっている。今後も、生徒がスポーツや地域の行事を通して交流に積極的に取り組めるような体制を充実させていきたい。 ・防災訓練やシェイクアウト訓練等を通して、生徒の防災意識を喚起することができた。 ・PTA活動がさらに活発になり、「おやじの会」の立ち上げにもつながった。(改善方策等) ・本校の生徒の地域での評価が高いことは大変喜ばしいことなので、引き続き、地域のニーズに応じた活動を検討し、より多くの生徒が関わるような体制作りをしていきたい。 ・「おやじの会」が軌道に乗るように、積極的に協力していきたい。 ・学校説明会等の中学校への広報活動の更なる充実を図っていく。
-------------------------------------	--	--	---	---	--	--

<p>VI 信頼に根ざした学校づくりを推進する</p>	<p>1 不祥事・事故防止の徹底 (1) 危機管理の視点から、個人情報・学校情報の管理や安全管理上の点検・改善に学年やグループ等の単位で組織的に取り組み、事故不祥事防止を徹底する。 (2) 県費、PTA 諸会費、部活動費等について、透明で合理的な予算計画・予算執行体制により、不適切経理を防止する。</p>	<p>・学年、分掌グループや教科単位での事故防止の取組や四半期毎のグループの課題集約により、学校運営の改善が図られたか。</p>	<p>・生徒についてのさまざまな個人情報の管理及び点検について、徹底した事故不祥事防止となりうるマニュアルを作り、それをもとに組織的に取り組んだ。 ・県費、PTA 諸会費、部活動費等について、透明で合理的な予算計画・予算執行体制により、適切な経理を行うことができた。</p>	<p>・引き続きマニュアル等の改善をはかり、事故不祥事防止を徹底していきたい。 ・四半期毎に明確に区切られていない業務も多いので、課題集約に当たっては前期、後期で考えていくことを検討した方がよい。</p>	<p>(保護者)(学校評議員) ・透明で合理的な会計処理を行っていることを評価したい。</p>	<p>(学校評価) ・職員間の風通しがよくなり、様々な情報を共有できることができた。 ・業務の振り返りについては、四半期ごとに行うことが難しかった。 ・グループ間で調整ができないままの業務があった。 ・私費については、不適切な執行を防止することに努めた。</p> <p>(改善方策等) ・校内における情報の共有化や報告・連絡・相談をさらに徹底することにより、不祥事防止に取り組みたい。 ・業務の振り返りは、企画会議等で定期的に行っていきたい。 ・グループ間でどの部署が担当するかを明確にし、仕事の流れが見えるようにしていきたい。</p>
-----------------------------	---	--	--	---	--	---